

論文審査の要旨

報告番号	総研第 727 号	学位申請者	川崎 博史	
審査委員	主査	垣花 泰之	学位	博士(医学)
	副査	西村 正宏	副査	曾我 欣治
	副査	寺菌 英之	副査	五代 幸平

Verification of the relationship between the sequential organ failure assessment score and the length of intensive care unit and hospital stay in terms of medical resources input
(医療資源の投入量からみた SOFA スコアと集中治療室入室期間及び入院期間の関係性の検証)

診断群分類別包括支払い制度(Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System : DPC/PDPS)の導入によって、平均在院日数の短縮が進められている。しかし、特定集中治療室管理料加算においては、加算要件を満たせば、入室後 14 日間の加算を請求することが可能である。DPC 等の指標に基づく適切な集中治療室(Intensive Care Unit:ICU)入室期間は定められておらず、入室患者の客観的な重症度や患者アウトカムを考慮した仕組みにはなっていないという課題がある。効果的な医療資源の投入と、客観的指標に基づいた至適入室期間の確立が必要である。そこで学位申請者らは、ICU 入室後 2 日間の医療資源の投入量が、Sequential Organ Failure Assessment(SOFA)スコアと ICU 入室期間及び入院期間とどのような関係性があるのかを明らかにし、SOFA スコアが ICU の至適入室期間の指標となり得るか検証を行った。

その結果、本研究で以下の知見が明らかにされた。

- 1) ICU 入室時の SOFA スコアは、入室後 2 日間の医療資源の投入量と、その後の ICU 入室期間に影響を及ぼす。
- 2) SOFA スコアに応じた ICU 入室早期の医療資源の投入が、DPC 入院期間の短縮に繋がる。
- 3) 医療資源の投入量は SOFA スコアと関係があり、SOFA スコアが ICU の至適入室期間を導く有用な指標となる。

集中治療の領域では、早期リハビリテーションや早期経腸栄養等が患者予後の改善に寄与することが広く認識されている。せん妄予防や感染管理の観点からも早期退室に繋がる、ICU 入室後早期の医療資源の投入が重要である。また、患者重症度に沿った医療資源の投入から、適正な入室期間や入院期間、また回復程度等の患者アウトカムを明確にした仕組みが集中治療の領域には必要である。

本研究は、医療資源の投入量の観点から、SOFA スコアと ICU 入室期間及び入院期間の関係性を検証したものであり、その結果、SOFA スコアが ICU 入室期間と入院期間に影響を及ぼしていることが明らかになった。加えて、医療資源の投入量が SOFA スコアと ICU 入室期間及び入院期間に関係していた本研究の結果は、SOFA スコアが医療資源の投入量の根拠に沿った、ICU の至適入室期間を導く有用な指標となることを示した点で非常に興味深い。よって本研究は学位論文として十分な価値を有するものと判定した。